



玩具の撰び方

中村 五六

子供本位でなくてはならぬ
 子供は起て居る間は絶えず運動して居るものであ
 つて、其運動するには、何か物を持つて運動した
 がるものである、故に家庭内に在る物は子供の眼
 からは總て自分の玩具であると思つて居るので、
 其子供の四周に置いてある手頃のものを以つて、
 遊びたがるのである。子供の眼には價値が高い物
 であるとか、又は家の必需品であるとか危険なも
 のであるとか云ふ事は更に頓着無い、兎も角も手
 に持つて遊ぶ事が出来れば、それで満足して居る

のである、故に昔は別段玩具なるものは無く、
 家庭の用具を持つて、勝手に子供が遊んで居つた
 のであらうが、それでは子供の爲にもならず、又
 家の器具を勝手に子供に使用されては困ると云ふ
 ので、玩具なるものが始めて出来たものと思ふの
 である。そこで玩具は子供の運動を助ける爲め、
 子供の自由に持ち遊ぶ爲めに、購ひ調べて與ふる
 ものであるから、子供本位にして玩具を買はねば
 ならぬ、所が今日家庭で買ひ與へる玩具は、多く
 大人の心で買つて、大人の爲めに買ふか如き趣が
 ある、故に買つて來ても床の間に備へて置いて、
 自由に子供に使はさず、只見るものにして置くが
 如き有様であるが、斯くては玩具の効用が無いと
 思ふ。

玩具は手に持たるゝもの
 ふもちやと云ふものは、手に持つて子供が遊ぶも
 のを云ふのであるから、子供の手に持たれ得るも
 ので無くては、玩具の性質に幾分か外れて居るの
 である、故に玩具の種類で一番多くあるのは、子
 供の手に持たるゝものである、玩具は五感に觸る

いものであります、先づ手に觸るゝものであります、子供の運動を起す始りは、手に物を持つと云ふ事から始るのであります、子供の年齢に依つて運動の方法も異なりますから、玩具を興ふるにも、子供の年齢に相應しい物を興へなくてはなりません、子供の心になつて親が買つて興へなくてはなりません、子供の心はどんなものであるかと云ふ事は、兒童心理學等を研究せねば知りませんが、素人には子供の心は解りませんが、先づ年齢及び其性質に依つて、これならば適當であると云ふ考を持つて買ひ調へねばなりません、危険が無く且つ博戯に類せざるもの、玩具を子供に相應して買ひ調へると云ふ事は、素人に、出來難い問題であるが、先づ第一注意せねばならぬのは、危険の恐れが無いと云ふものを選び、ぶのである、ブリキ細工の如きは毀れ易いのみならず、危険が最も多い、又色でも有毒なものを用ゐたるものがある、子供の間は善く口に入るものであるから、染料に對しても深く注意せねばならぬ、又博奕に類するものが玩具の中には往々ある、

勝負を友人同志相争うて遊ぶと云ふ風な事は、子供の精神上最も惡感化を及ぼすものであるから、之を求めぬやうにしないでならぬ、又毀れ易い物で無いものを選び、善いものが、毀れても之が部分的であつて、毀れたなりに玩具の性質を帯びて居りさへすれば善いと思ふ、又必しも自動的のものには必要でない、バネで進む如きものよりは、自ら、動かして遊ぶと云ふものを子供は樂しむものである、漁車がバネ仕掛で自然に動くよりは、船を自分で動かして遊ぶ方が子供は喜ぶのである、又價の高い物と安い物とは、子供には何等の關係が無い、安くて子供が最も喜ぶものが一番よいのである。

幼稚園で使用する玩具と、家庭で使用する玩具とは、其種類が違つて居る。幼稚園では、大衆の子供が平等に取扱ふものでなくてはならぬ。

